30P1-am001

摂南大薬における基礎科目への学習支援の効果

○柳田　一夫[1], 栗尾　和佐子[1], 山本　千恵[1], 内田　秀治[1], 河野　武幸[1]([1]摂南大薬)

【目的】摂南大薬では 2006 年度から学習支援センターが設置され、基礎科目（化学、物理、生物など）の支援が始まった。その効果を測るため、高校での履修状況や１年次での支援活動とこれら科目の試験結果との関係について統計的解析を行った。

【方法】講義時間中の小試験により GIO の修得が困難と思われる学生を抽出して補習などの支援を行うとともに、１年次生全員を対象にして質問対応を行った。

【結果】物理を例にとると、支援対象者は支援不要者よりも高校で物理を履修していない割合が大きく、また、小試験の点数は数 II・数 III の履修状況との間に有意な関連性が見られた。さらに、物理の支援対象者では、本試験合格率において支援による効果が見られた。生物についても同様の解析を行ったが、高校での生物の履修状況による差は見られなかった。

【考察】物理系科目の支援対象者は、高校での物理の履修が不十分で、勉強したくても自力で学習するのが難しいのではないかと考えられる。そのため、支援の回数や方法を工夫していくことが必要である。また、生物系科目の支援対象者には、自己学習を習慣付ける支援が必要と考えられる。